

| | | | | | |
|----------|---|------|----|---------|-----|
| 授業科目 | 運動療法学Ⅱ | | | | |
| 担当者 | 島雅人（実務経験者）、牧之瀬一博（実務経験者）、田坂厚志（実務経験者） | | | （オムニバス） | |
| 実務経験者の概要 | 島雅人：理学療法士として、病院や介護老人保健施設等にて実務経験あり。 牧之瀬一博：理学療法士として、病院等にて実務経験あり。 田坂篤：理学療法士として、病院や介護老人保健施設等にて実務経験あり。 | | | | |
| 学科名 | 理学療法学専攻 | 学 年 | 3年 | 総単位数 | 2単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

運動療法学Ⅰで学んだ知識をもとに、学生間での実技演習を通して各運動療法の基本的な技術を身につける。また、障害を有する対象者に対して、どのようにリスクを管理しながら効果的な運動療法を実施していくかを思考し模擬的に実施する。そのため、本学の履修においては、運動療法の原則や疾患の知識を復習しながら学んでいく。

島雅人（実務経験者）、牧之瀬一博（実務経験者）、田坂篤（実務経験者）

■ 到達目標

1. 運動療法に必要な解剖・運動・生理学の知識及び運動療法の原則について理解を深める
2. 学生同士で各運動療法技術を実施することができる
3. 各運動療法技術を障害のある対象者に実施する際の注意点（リスク）を理解できる
4. 各障害を想定した運動療法を模擬的に実施できる

■ 授業計画

- 第1回 コースガイダンス
運動療法の種類、方法、運動療法に必要な四肢・体幹の触知：島（実務経験者）
- 第2回 運動療法に必要な四肢・体幹の触知：島（実務経験者）
- 第3回 自動介助運動の仕方、神経筋活動の抑制と促通：島（実務経験者）
- 第4回 自動介助運動の仕方、神経筋活動の抑制と促通：島（実務経験者）
- 第5回 自動介助運動の仕方、神経筋活動の抑制と促通：島（実務経験者）
- 第6回 自動介助運動の仕方、神経筋活動の抑制と促通：島（実務経験者）
- 第7回 協調性障害に対する運動療法（運動の協調性、バランス障害）：島（実務経験者）
- 第8回 協調性障害に対する運動療法（運動の協調性、バランス障害）：島（実務経験者）
- 第9回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第10回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第11回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第12回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第13回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第14回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第15回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第16回 筋力低下に対する運動療法の実際：牧之瀬（実務経験者）
- 第17回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第18回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第19回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第20回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第21回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第22回 関節可動域障害に対する運動療法：田坂（実務経験者）
- 第23回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）
- 第24回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）
- 第25回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）
- 第26回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）の実際：田坂（実務経験者）

- 第27回 全身調整運動（介護予防・健康増進を含む）：田坂（実務経験者）
第28回 全身調整運動（介護予防・健康増進を含む）：田坂（実務経験者）
第29回 実技の到達度確認：島（実務経験者）、田坂（実務経験者）、牧之瀬（実務経験者）
第30回 実技の到達度確認：島（実務経験者）、田坂（実務経験者）、牧之瀬（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）60% 提出ノート 20% 実技の到達度 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業前には該当する運動療法学の知識を復習して臨んでください。
運動療法の技術を習得するためには、実技の練習を何回も繰り返して行う必要があります。授業中に実技に真剣に取り組むことはもちろん、授業後も技術を習得するための自主練習を行い、理学療法士の主要な治療技術の基本を身につけてください。
毎回の講義に関して、まとめノートを作成すること。まとめノートは講義期間中に2回提出してもらいます。

■ 教科書

書名：標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第4版
著者名：シリーズ監修：奈良 勲 編集：吉尾 雅春
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：最新運動療法大全 I 基礎編 第6版
著者名：キャロリン・キスナー / リン・アラン・コルビー 他
出版社：ガイアブックス

■ 留意事項

運動療法の技術を身につけるため、繰り返し練習を行うこと。

理解できなかった部分や、実施方法が分からなかった場合は必ず質問に来ること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含むため、学校指定のジャージを着用すること